

導入企業様名

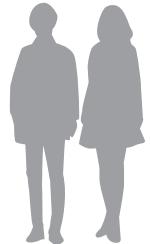


[www.toyo.ac.jp](http://www.toyo.ac.jp)



哲学する心を、持て。

東洋大学は、1887年に「私立哲学館」として井上円了博士により創立された、125年以上の伝統を持つ総合大学です。円了は、人々が「自分なりのものの見方、考え方を持ち、自分なりの哲学を持って行動すること」が近代国家の発展に不可欠であると考え、哲学の普及に向けて日本全国を巡講し、多様な人々に学習の門戸を開いていきました。総合大学として日々進化を遂げながら、2012年、創立125周年を迎える、「国際化」「キャリア教育」そしてその基盤となる「哲学教育」の3つを教育の柱とし、時代や環境の変化に流されることなく、自分の未来を切り拓くことのできる「グローバル人材」を育成していきます。



## ✓ The precious story



 GeneXus導入の背景をお話しいただけますか？

創立125周年事業のプロジェクトとして、「学務システム」「会計システム」「入試システム」「図書館システム」「人事システム」「卒業生システム」—6つの事務支援システムの再構築が行われることになりました。そのうち「人事システム」「卒業生システム」の再構築において、GeneXusを使用したスパイラル方式による開発を行いました。

人事システムの再構築は人事専門のコンサルタントを設計に参画させ、人事制度と組織にマッチングした人事システムをスクラッチで開発することになりました。「開発期間の短縮」「システムのレガシー化防止」「業務プロセスの埋没防止」これらを叶えるために、「GeneXus」導入の提案がありました。

提案内容は本学の「調達仕様書」をほぼ満たしており、人事専門のコンサルタントより助言を受けながら設計開発を行うことが可能でした。GeneXusを導入したシステムの再構築は、将来の人事制度の改革への対応だけでなく、人事評価制度の導入にも対応する「将来を見据えたシステム開発」が可能であると期待できました。

また、稼働後の年間保守費は開発費全体の10%程度が目安でしたが、その費用の中で軽微な仕様変更は保守費内でカバーできることも導入の要因となりました。以上の点を高く評価し、また、開発予算内での見積もり提示をされた、株式会社エスエスイー（GeneXus販売店、以下SSE社）を開発ベンダーとして選定しました。



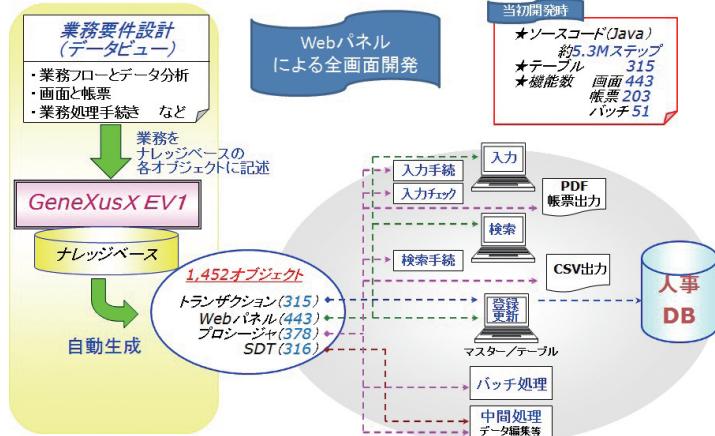
GeneXusでの開発状況はいかがでしたでしょうか？

これまでの経験上、システム開発では開発者側とユーザー側との理解の相違により「認識が違います」というフレーズが流行語となるほど多発していました。開発手法としてはウォーターフォール型で、素人には理解しがたい要件定義書を確認して開発が行われ、完成したものが「あれ、想像していたものと違う」ということが多くの局面であり、そのようなケースに対してユーザーの使い勝手の良いものを要求すると「それは仕様変更です」「それは別機能です」等の返答により、仕様

変更・追加開発費用を要求されるという「開発者目線でのシステム開発」を経験してきました。今回のGeneXusを活用した開発では、まずはユーザーの要求事項をまとめ、それを伝えるのと同時に開発範囲を確定させ、3つのフェーズで実際にユーザーが操作できるプロトタイプ(試行版)を作成し、詳細な仕様を確定させました。

プロトタイプという言葉からチープな仕上がりを想像していましたが、実際には本番で使用できそうなほどの画面が見せられました。

## 人事システムの規模



## 開発スケジュール

修正の要望を出すことは出来上がった建物の作り直しを要求するよう最初は躊躇しましたが、SSE社からプロトタイプのレビュー方法についての説明を受け、安心してレビューを行いました。最初は戸惑いがありましたが、本番をイメージしやすくユーザーとしては大変確認しやすかったです。

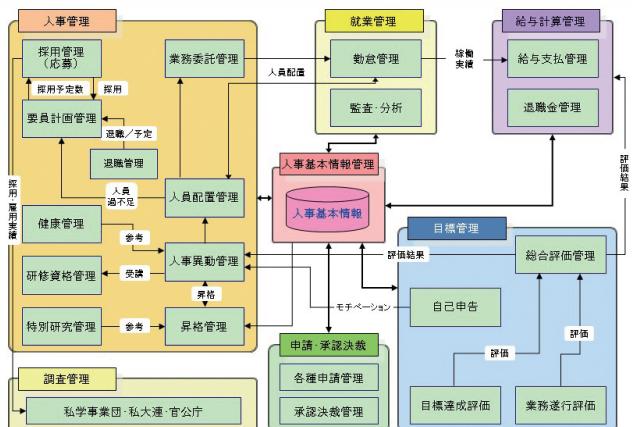
プロトタイプを確認した後に、当初は想定していないデータ項目の追加が発生することも多々ありました。少しシステムに詳しい人間であれば言い出せないようなことも平気で受け入れられ、開発過程で容易に取り込むことができました。GeneXusでなければ、何度もちやぶ台をひっくり返すようなシステム変更が発生したと思います。

プロトタイプのレビューをしながらシステム開発を進めていく中で、驚きの連続でした。画面や動き、帳票、それを確認してからの要望の

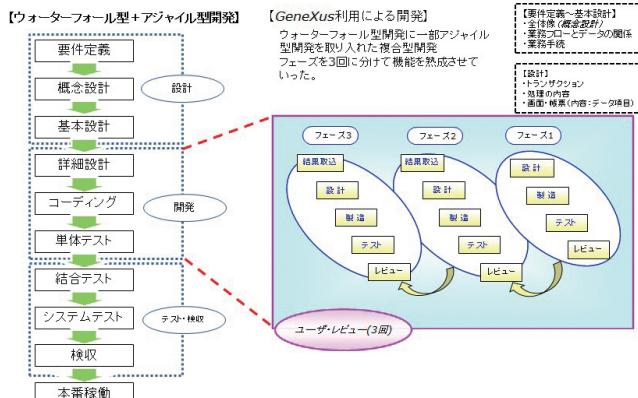
吸収の仕方、フェーズ2での改修版での要望事項が反映されている点では今までの開発手法は何だったのかと考えさせられました。GeneXusの利点をフルに活用したSSE社の技術力やユーザーとの認識違いを起こさないためのコミュニケーション能力、また資料の提示方法等に、従来の開発方法とは異なるGeneXusの開発でのプロジェクトを行えたことに感謝しています。

GeneXusでの開発はウォーターフォール型の成果物を担保しつつ、アジャイル=スパイラルでの利点を生かしたシステム開発となりました。この開発を通じて、今までの開発手法が「開発者目線での開発」だったのに対し、今回の開発手法は「ユーザー目線の開発」で、ユーザーの要求事項をシステムにダイレクトに反映できる手法であると感じました。

## システム全体イメージ



## 開発方法



GeneXus導入の効果を具体的にお教えいただけますでしょうか？

TCO一トータルコストオブオーナーシップを最大化できていると思います。冒頭でお話した通り、6つの事務支援システム「学務システム」「会計システム」「入試システム」「図書館システム」「人事システム」「卒業生システム」の再構築のうち「人事システム」「卒業生システム」の再構築においてGeneXusを使用しましたが、稼動後に時が経つほど感じることが、日進月歩の情報システム環境において

「レガシー化を回避できる」ということがあげられます。他のシステムが動作環境(OS、ブラウザのバージョンアップ)に悩まされている中で、「人事システム」「卒業生システム」はGeneXusが対応すればすぐに最新の環境で動作するので、システム環境を気にせず、業務に集中でき、他のシステムと比較しても、手間がかからないことがよくわかりました。

今後の展開としては、どのようなことをお考えでしょうか？



- ①各種法令改正に伴う、人事システム機能強化必要性の可否判断
- ②新人事システムの蓄積データの活用方法を全学的に共有
- ③他システムとのデータ連携を強固にした大学全体のスムーズな業務連携

- ④ユーザーの利便性向上を図るための機能強化
  - ⑤残存している紙媒体情報の選択入力の可否を判断
- 以上の強化対象機能について、費用対効果、重要度等々の優先順位をつけて課題解決に向けて取り組んでいます。

「今回ご協力頂いたユーザー様」



学校法人 東洋大学

Tel. 03-3945-7224

〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20

HP <http://www.toyo.ac.jp>

「ユーザー様ご担当販売店様」



株式会社 エスエスイー

株式会社 エスエスイー

Tel. (03)5449-2381

〒141-0022 東京都品川区東五反田1-11-15 電波ビル 7F

HP <http://www.kksse.co.jp>

「日本総代理店」



ジェネクサス・ジャパン株式会社

Tel. (03)6303-9381 Fax. (03)6303-9980

〒141-0031 東京都品川区西五反田2丁目27番3号

HP <http://www.genexus.jp>